

原爆症認定集団訴訟の全面解決めざすFAXニュース



「原爆をゆるすまじ」



発行元	原爆症認定集団訴訟を支援する全国ネットワーク	2008年6月26日 .2
連絡先	日本被団協 〒105-0012 東京都港区 芝大門1-3-5ゲイブルビル9階	: 03-3431-8098 FAX : 03-3431-2113 e-mail : kj3t-tnk@asahi-net.or.jp

東京・有楽町で宣伝。原告の訴えに大きな反響が

『これで引き下がるわけにはいきません。』

『福田首相は決断をしてください。』

6月25日昼、原爆症認定集団訴訟全国原告団、同弁護団、被爆者と支援団体の代表ら約50人が有楽町マリオン前で宣伝行動をおこないました。(右写真)山本英典全国原告団長、中村尚達長崎弁護団長、東京弁護団の内藤雅義弁護士がマイクを握り、長崎地裁判決で9連敗を喫しても訴訟を続け、被爆者を苦しめる国・厚労省を厳しく批判しました。



続いて、東京原告の田崎アヤ子さんと西本治子さんが、自らの被爆体験をまじえ、渾身の訴えをおこないました。田崎さんは、1審で肝細胞ガンが原爆症と認められたにもかかわらず、判決前に力尽きてしまった姉の無念の思いを語り、「絶対に引き下がるわけにはいきません」とたたかい続ける決意を述べました。西本さんは、病気とともに生きてきた自らのつらい人生を語り、「私の戦争は終わっていません。福田首相は決断をしてほしい」と訴えました。こうした訴えに通じかかったサラリーマンらも次つぎ足を止め、チラシを受け取り、1時間の間に1000枚のチラシが配られました。

続いて、東京原告の田崎アヤ子さんと西本治子さんが、自らの被爆体験をまじえ、渾身の訴えをおこないました。田崎さんは、1審で肝細胞ガンが原爆症と認められたにもかかわらず、判決前に力尽きてしまった姉の無念の思いを語り、「絶対に引き下がるわけにはいきません」とたたかい続ける決意を述べました。西本さんは、病気とともに生きてきた自らのつらい人生を語り、「私の戦争は終わっていません。福田首相は決断をしてほしい」と訴えました。こうした訴えに通じかかったサラリーマンらも次つぎ足を止め、チラシを受け取り、1時間の間に1000枚のチラシが配られました。

被爆地・長崎での行動

平和祈念像前の座り込み:

6月26日、27日、30日、7月1日～4日(いずれも12時～13時)

街宣車での行動:

6月27日、7月2日(いずれも14時～17時)

東京での集会・行動

7月2日(水) 11:45～13:00 厚労省前行動

7月3日(木) 11:45～13:00 厚労省前行動